

中小企業診断士養成課程における
新型コロナウイルス感染症対策について【重要】

中小企業大学校 東京校は、受講者の皆様の健康と安全を最優先に考え、以下の通り新型コロナウイルス感染症の予防対策を実施いたします。

以下の内容が、『受講同意書』の第2条 新型コロナウイルス感染症対策 についての同意事項となりますので、事前に必ず内容をご確認ください。

中小企業診断士養成課程を受講される受講者の皆様及び派遣元責任者の皆様におかれましては、当対策へのご理解とご協力をお願いいたします。

なお、以下の内容につきましては、感染症法、新型インフルエンザ等対策特別措置法等の法令、国の基本的対処方針、法令に基づく自治体の要請事項などの変更に応じ、適宜見直しを行います。

1. 基本的な感染対策実施事項

- (1) マスクの着用の徹底(感染予防に効果を発揮する適切なマスクの着用)
- (2) 頻回の手指消毒とそのため教室等へのアルコール消毒液の常設
- (3) アクリル板等を設置した飛沫感染防止
- (4) 頻回の換気実施
- (5) 研修使用物(椅子・机・WB等の備品・WB用ペンなどの消耗品)の消毒
- (6) 教室の受講者収容率を半減し密集回避
- (7) 講師、実習指導員、大学校関係者、受講者の毎日の検温と体調チェック
- (8) 特別措置法第45条第1項における東京都の協力要請の遵守

2. 教室の三密防止及び感染対策

(1) 密閉低減

- ・講義中も窓や出入口を原則として開放いたします。
- ・教室内の空気は機械換気により、十分な安全は確保されていますが、休み時間毎に窓を開け自然換気も行います。
※教室内の換気に伴い、室温が低くなることがございます。各自で羽織物等を持参の上、体温の調整をお願いいたします。

(2) 密集低減

- ・1教室あたりの収容率を下げるため着席数を制限いたします。
※複数の教室に分かれてご受講頂く場合がございます。
- ・座席は1テーブル1人といたします。
- ・座席の間隔を十分に確保いたします。

(3) 密接低減

- ・講師、実習指導員及び大学校関係者は、常時マスクを着用いたします。また、フェイスシールドを着用することがございます。
- ・受講者の皆様にもマスク(不織布)の持参と適切な着用をお願いいたします。
- ・グループワーク等で対面でのディスカッションを行う際は、机上に間仕切りを設置した上で、フェイスシール

ドの着用をお願いする場合がございます。※フェイスシールドは当校で用意いたします。

※これらの対策により、従来の研修手法が制限される可能性もございますが、何卒ご容赦願います。

(4)衛生管理

- ・教室入室前には、手指をせっけん液等で十分に洗うまたは、アルコール消毒液等を使用し、こまめな消毒をして下さい。
- ・研修開始前に机・椅子については、毎日消毒を行います。
※机の上に教材等を置かないでご帰宅ください。(机の下や棚をご利用ください。)
- ・貸し出し用 PC や間仕切りは使用後に消毒を行います。
- ・ハンドマイクを使用する際は、教室に備え付けのアルコール消毒ティッシュを使用し、拭いてから他の方にお渡しください。
- ・ホワイトボード用ペンやイレーザー等、共有で使用したものは、教室に備え付けのアルコール消毒ティッシュを使用し、消毒をしてからご帰宅ください。

(5)体調管理

- ・朝の入室前の検温と体調確認を実施します。検温と体調確認をして以下の入室制限に該当しないと確定するまでは教室に入室できませんのでご注意ください。
- ・健康・行動観察票に毎日の体温(できるだけ毎日一定の時間の体温)と体調、行動について記録し、大学校から求められた場合は至急、提出してください。

(6)入室制限

- ・入室前に 37.5 度以上の熱が確認された場合(ワクチン接種による副反応の場合を含む)は、入室を禁止とします。
- ・受講前あるいは受講期間中、以下の症状がある場合は、入室を控え、十分に体調が回復するまでお休みください。
- ・上記に該当する場合あるいは基礎疾患等をお持ちの場合は、早期の医療機関の受診をお勧めし、診断結果に基づき以後の入室の是非を判断いたします。

(教室への入室を禁止する症状)

受講者に、

- ◇発熱、咳、のどの痛み、鼻水、息切れ、だるさ(倦怠感)、頭痛、関節痛・筋肉痛、下痢・嘔吐、嗅覚・味覚障害等の症状のいずれかが見られる場合(ワクチン接種による副反応の場合を含む)

(教室への入室を禁止する内容)

受講される方および同居されている方が、

- ◇受講日の 5 日前以降に濃厚接触者と認定された場合
- ◇PCR 検査等を受け、結果が判明していない場合
- ◇新型コロナウイルス感染症の陽性者となり、保健所からの指示を待っている状況の場合
- ◇新型コロナウイルス感染症に罹患した可能性がありうると自覚される場合

3. 交流室・食堂・喫煙所・東大和寮内・洗面所の三密防止及び感染対策

(交流室)

- ・交流会は当面の期間、中止といたします。

- ・お弁当等をご持参される方の昼食の場としてご利用いただけます。黙食にご協力ください。

(食堂)

- ・食堂では、黙食にご協力ください。
- ・食事の前は、必ず手指の消毒をして下さい。
- ・食堂では、複数人数での大声での会話を禁止します。
- ・食後は、すぐにマスクを着用してください。
- ・食堂では、移動のための導線や前後の方との距離確保のための目印を床に貼っていますので、ご確認頂き、三密にならないよう行動してください。

(喫煙所)

- ・屋内での喫煙所を閉鎖いたします。屋外の所定の喫煙場所をご利用ください。
- ・喫煙所での大声での会話、長時間の滞在、飲酒は禁止です。
- ・喫煙中は会話をせず、喫煙後はすぐにマスクを着用してください。

(東大和寮)

- ・寮の居室内に、他者を入室させることは短時間であっても禁止です。
- ・講師にも周知をしますが、講師の指示であっても寮の居室内に、他者を入室させることは禁止です。
- ・寮の居室内での複数人数での飲み会は厳禁です。(オンライン飲み会を奨励します。)
- ・談話室のご利用は7時から23時となっております。談話室内の冷蔵庫・電子レンジ・トースター・テレビ・給茶機は、手の消毒後、ご利用ください。
- ・アスレチックルームは終日、ご利用できません。
- ・自転車は7時から22時まで貸出しを行っております(受付は7時から21時)。アルコール除菌後ご利用ください。
- ・フロント横の棚に新聞・雑誌を配架いたしますが、持ち出しは禁止しております。
- ・寮内の大・小浴場については、複数人数のグループで利用すること、大声での会話、長時間の滞在は禁止です。また、体調の悪い時には、ご利用をご遠慮ください。
- ・入浴後は、すぐにマスクを着用してください。(特に、脱衣所ではすぐマスクを着用して下さい。)
- ・寮の廊下において、マスクの着用をしない事、複数人数でのまとまったの行動、大声での会話、飲酒は禁止です。

(洗面所・トイレ)

- ・入り口では必ず手指の消毒をお願いいたします。
- ・洋式トイレは、フタをして流すようお願いいたします。

4. 研修時間外の感染予防対策

- ・新型インフルエンザ等による緊急事態宣言が発出された場合は、研修時間内外に関わらず、新型インフルエンザ等対策特別措置法第45条第1項に基づく東京都の要請に従って行動してください。
新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京都による緊急事態措置等が発出された場合についても、要請に従った行動をしてください。

5. 陰性証明等の提出

- ・実習先企業等への訪問前は、毎回必ず PCR 検査等の陰性証明(自己負担)および健康・行動観察票を提出

してください。なお、入寮あるいは入校前、帰省や旅行など都道府県間の移動や感染が拡大している地域への移動後に再入寮あるいは再入校する場合に PCR 検査等を受けられた場合は、陰性証明の提出にご協力ください。

6. 個人情報の提供について

- ・感染拡大防止のため、研修期間中また研修終了後に感染が判明した場合には、所管の保健所や他の受講者等に対し、氏名等の個人情報を提供させて頂く場合があることをご了承ください。

7. 今後の運営方法(予防策)等の変更について

- ・この運営方法は、今後の情勢等を見極めたうえで、「新しい生活様式」を踏まえつつ、安全管理を徹底できるよう改善して行きます。

8. 研修の中止及び修了について

- ・研修中に新型コロナウイルスへの感染が認められた方が発生した場合、研修を中断させていただくことがあります。他の感染者の有無や消毒等の措置を行い、安全が確保できたタイミングで、再開する予定です。
- ・中小企業診断士養成課程における修了要件は、出席時間数が所定開講時間数の9割以上です。万が一、研修中に新型コロナウイルスへの感染が認められた場合、最低でも、10日間以上の欠席が不可避となりますので、予定通りの時期での修了は困難になる可能性が高くなります。その場合、欠席分については、別に機会を設けるなど修了できるよう中小企業庁とも相談して決めていくことになります。
- ・研修中に新型コロナウイルスへの感染が認められた方が発生した場合、保健所の判断により周囲の方が濃厚接触者となる場合も想定されます。その場合も、保健所の指導に従い、接触があった日の翌日から 5 日間以上の欠席が不可避となりますので、予定通りの時期での修了は困難になる可能性が高くなります。この場合、欠席分については、別に機会を設けるなど修了できるよう中小企業庁とも相談して決めていくことになります。

9. その他

- ・実習に臨む意識と体調管理について

当校の中小企業診断士養成課程における実習は、50 日以上を確保した実践的な内容のため、慣れるまで苦勞する方が多くいらっしゃいます。事前の資料の読み込みや、事前の下調べ等の準備をし、仮説を立てて実習に臨むことで、「寝ないで作業する」というような無理をしなくて済みます。しかし、多くの方は、そうした状況を事前に説明されているにもかかわらず、準備を疎かにし、仮説を立てないまま闇雲に作業をするため、結果として「寝ないで挽回する」という行動を選択せざるを得ないよう見受けられます。特に、資格取得だけが目的になっている方や養成課程の政策的な意義や位置づけ、当校の研修の特徴を理解しないまま受講されているように見受けられる方にその特徴が顕著です。カリキュラム内容は、「寝ない」という無理をしなくても十分に達成できる内容ですし、実際に睡眠時間を十分に確保してやり切っている先輩も数多くいらっしゃいます。演習やオリエンテーションを通じ、必要な情報は前もって提供していますので、まずは、提示されている資料をしっかり理解してください。その中に必ずヒントはあります。なかには、ヒントではなく「答え」を教えてほしいとリクエストされる受講者もいらっしゃいますが、実習先によって必要な情報は様々ですので、「答え」はありません。実習先に必要となる情報を自分で考え、見当をつけ、自分なりの仮説に合わせて準備していくことが中小企業支援者として必要なスキルになります。当校では、このような「経験学習」が特徴の1つとなっておりますので、ヒントは十分に与えても、「答え」を与えることはありません。中小企業支援者として成長するために、「答えが与えられない学び＝自分で答えを作る学び」の場に身を置いているのだという事をご理解ください。

現在は、特に、感染症リスクが高まっている状況ですので、「寝ない」で体調を崩し、免疫力を下げる事は、本末転倒です。しっかり学んでしっかり休むという生活リズムを維持することがとても重要であり、そのためには、カリキュラムを深く理解し、学が姿勢を見直すことで、ご自身の生活リズムを維持し、体調管理も出来るようになります。実習においては、特に体調を崩さないよう、前もって実習に臨む意識の持ち方と、体調管理の必要性をお伝えしておきます。

・オンラインでの交流について

当校の養成課程の良さは、受講者同士の横のつながりが出来る事でもあります。同じ目標に向かう受講者同士のコミュニケーションを通じて、経験学習が促進され、学びが深まります。直接対面でのコミュニケーションがしにくい状況ですが、オンラインツール等を積極的に活用し、ぜひ、受講者同士の交流を深めていただければと思っています。そのため、寮・校内ともインターネット環境を整え、より安定的にオンラインを介して繋がれるよう、寮居室内は有線接続も可能な仕様になっています。これまでに比べ不自由で制約の多い状況について、当校も忸怩たる思いを持っていますが、感染が拡大し多くの方の修了が延期されるリスクは出来る限り避けたいとも思っています。受講者の皆様におかれましては、オンラインツールを駆使して頂き、安全にかつ積極的に交流をしていただけますようお願いいたします。

・「自分がかからない」事と同じくらい重要な「周囲にうつさない」事について

前期において、ちょっとくらいなら大丈夫だろう…と判断をし、飲食店等に出入りをされていた受講者の方が複数名いらっしゃいました。ちょっとくらいなら大丈夫だろう…という判断に根拠はなく、たまたま感染がなかっただけであり、ご自身のみならず、周囲にも感染させる可能性を考えると、非常に自己中心的な行動と言わざるを得ません。感染症の恐ろしいところは、ほとんどの方がルールを守っていても、たった1人のルール違反者が感染したら、それが全体に広がってしまう事です。受講者の皆様には、自分がかからない事と同じくらい、周囲にうつさない事も重要であるという認識を共有していただき、くれぐれも全体のリスクを高める行動については、軽率な判断をされないようお願いいたします。

・関係者一丸となつての感染防止対策について

当校では、より安全管理を徹底し、受講者全員に、予定通りの期間で修了していただけるよう努力しております。しかし、当校のみの努力では不十分であり、受講者の皆様の協力が不可欠です。長期宿泊型研修という特徴から、研修時間内だけではなく、研修時間外の過ごし方についても、感染リスクが高まる行動をとらない、ルールを守るということが、普段以上に重要になってきています。受講者・大学校が一丸となり、油断せず、ルールを守り、当たり前のことを当たり前コツコツと徹底していく、これが、安心・安全な学びの場を作るために必要不可欠なことになりますので、不自由をおかけし大変申し訳ありませんが、ぜひご協力をお願いしたいと思います。